

今年も！青空サロン「さとカフェ」が始めました

有志グループ「つながろう会」では、地域のコミュニティづくりの場として青空サロン「さとカフェ」を開催しています。令和4年秋から始まった「さとカフェ」は、無料のコーヒーやお茶を提供し、散歩途中の休憩やおしゃべりなど交流の場になっています。地区回覧や町会回覧で開催のお知らせをしていますので、どなたでもお気軽にご参加ください。また、開催していただける場所がありましたらお声がけください。



4/22、湯の原公民館横駐車場で開催しました。満開のハナモモの咲く中、町会の方や他地区の方、旅行で訪れた方も立ち寄り、にぎやかな「さとカフェ」でした。



5/19、薄町町会の須々岐水神社近くで開催しました。今回で3回目になる「さとカフェ」を毎回楽しみにしている常連さんもいて、爽やかな風の中和気あいあいと楽しい時間が流れました。

5/30、北小松公民館で開催しました。肌寒いあいにくの天気で、公民館内だけの開催でしたが大勢の方が参加しました。他町会の方も来てくれて、楽しい「さとカフェ」でした。

つながろう会は、「地域の為になることはやってみよう！」と活動をしています！



のぼり旗が目印です

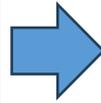
どうなる！日本のお米

令和6年8月、当たり前前に売られていたお米が店頭から消えました。売り場には「入荷の予定はありません」の張り紙があり、買えずに困った方も大勢いましたね。

その後は米の価格高騰に驚きました。「消えたお米」はどこにあるのでしょうか。「平成」と「令和」の米問題について紹介します。

【平成の米騒動】

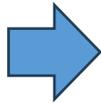
平成5年、冷夏による米の大凶作で「平成の米騒動」が発生しました。この時は、緊急輸入や代替え食品の推奨など政府による緊急対策が取られました。



平成7年より政府による米の備蓄を制度化した「備蓄米制度」が始まりました。備蓄量100万トン、最大5年保管とし、保管期間を過ぎると主に飼料用として販売されます。

【令和の米騒動】

令和6年、米の需要増加による品薄や値上げを「令和の米騒動」と呼ぶこともあります。令和5年の記録的猛暑と水不足による米の生産量の減少に加え、需要の急激な回復や国際情勢の変化などが理由に上げられています。



令和7年2月の「備蓄米」の放出表明以降、現在は入札方式から随意契約方式に転換され急速に市場へと流れ始めました。古米・古古米・古古古米、さらに古古古古米の販売など、今後の価格動向も注視したいです。

地区生活支援員が地域のつながり・ささえあい活動を応援します

地区の住民の方、関係団体（協議体等）、関係機関（地域包括支援センターや地域づくりセンター等）と連携を取りながら、介護予防、通いの場、生活支援サービス等を推進し、住民相互の助け合いを支援いたします。

地域の皆さんと一緒に考えて取り組みます。「あったらいいな！」を共に考え、つくりましょう。



家のそばで体操できればなあ

高齢の父母が心配なだけで



仕事はリタイアしたけど、地区で何かできるかなあ



地区生活支援員の事務所は、地区地域づくりセンターです。「どうなっているんだろう」という小さな疑問も下記の問い合わせ先にお尋ねください。

【お問い合わせ】

里山辺地区地域づくりセンター

電話：32-1077

直通電話：070-8684-8035

地区生活支援員 野澤好子



生活支援員 さとちゃん